

# 1

# 教員・授業・勉強・研究 について

## 授業への関心..... 4

### 5割以上の学生が授業に興味がある

授業に興味がある」と回答した学生

学部学生：54.1% 大学院生：72.3%

その中で、大学での授業や研究・勉強が将来自分の役に立つと「思う」学生

学部学生：55.0% 大学院生：69.0%

## 授業出席率..... 5

### 学生の6割が出席率9割以上 学部高学年ほど出席率は低い

学部学生の授業への出席率90%以上の割合

1年：78.7%、2年：59.0%、3年：55.9%、4年：43.4%

## 授業の満足度..... 6

### 授業満足度は高くないが向上傾向

満足できる授業の割合が「80~100%」

学部学生：11.2% (2009年度) → 11.6% (2010年度)

大学院学生：33.5% (2009年度) → 41.3% (2010年度)

## 教員との対話..... 7

### 学部学生の4割・大学院学生の9割が教員と対話

教員と対話を「している」、「たまにしている」

学部学生：43.0%、大学院学生：93.0%

## 授業選択の要素..... 8

### 授業は「講義内容」で選択

授業選択理由のベスト3

学部：「講義内容」(85.5%)、「曜日・時間帯」(50.1%)、「単位取得の難易」(26.4%)

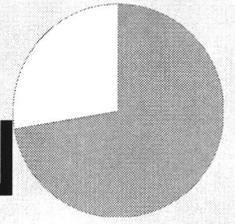
大学院：「講義内容」(91.0%)、「担当教員」(42.1%)、「曜日・時間帯」(29.2%)

## 調査結果の要約と特徴..... 9





# 5割以上の学生が 授業に興味がある



授業に興味がある」と回答した学生→学部学生：**54.1%** 大学院生：**72.3%**

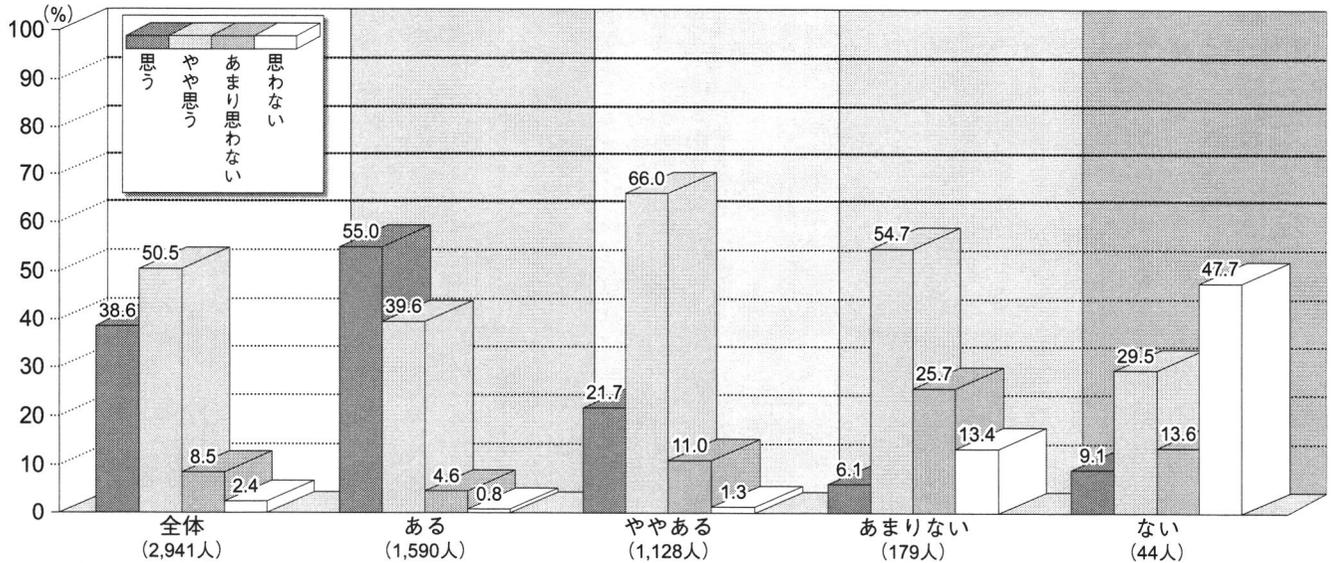
その中で、大学での授業や研究・勉強が将来自分の役に立つと「思う」学生→学部学生：**55.0%** 大学院生：**69.0%**

授業への関心が高い学生ほど、所属学科・研究科での学習内容が、将来自分の進路先で役に立つと考えています。

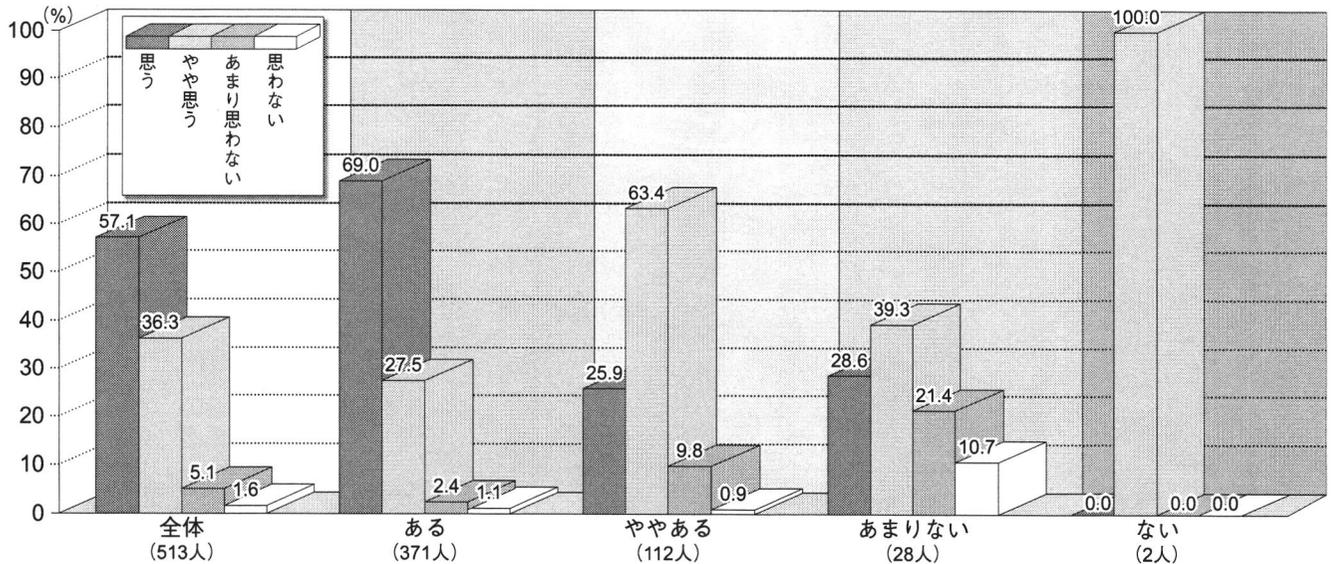


大学(学部・研究科)での授業や研究・勉強は、将来自分の進路先でなんらかの役に立つと思いますか？／大学の授業に興味がありますか？

## 学部



## 大学院





# 学生の6割が出席率9割以上 学部高学年ほど出席率は低い

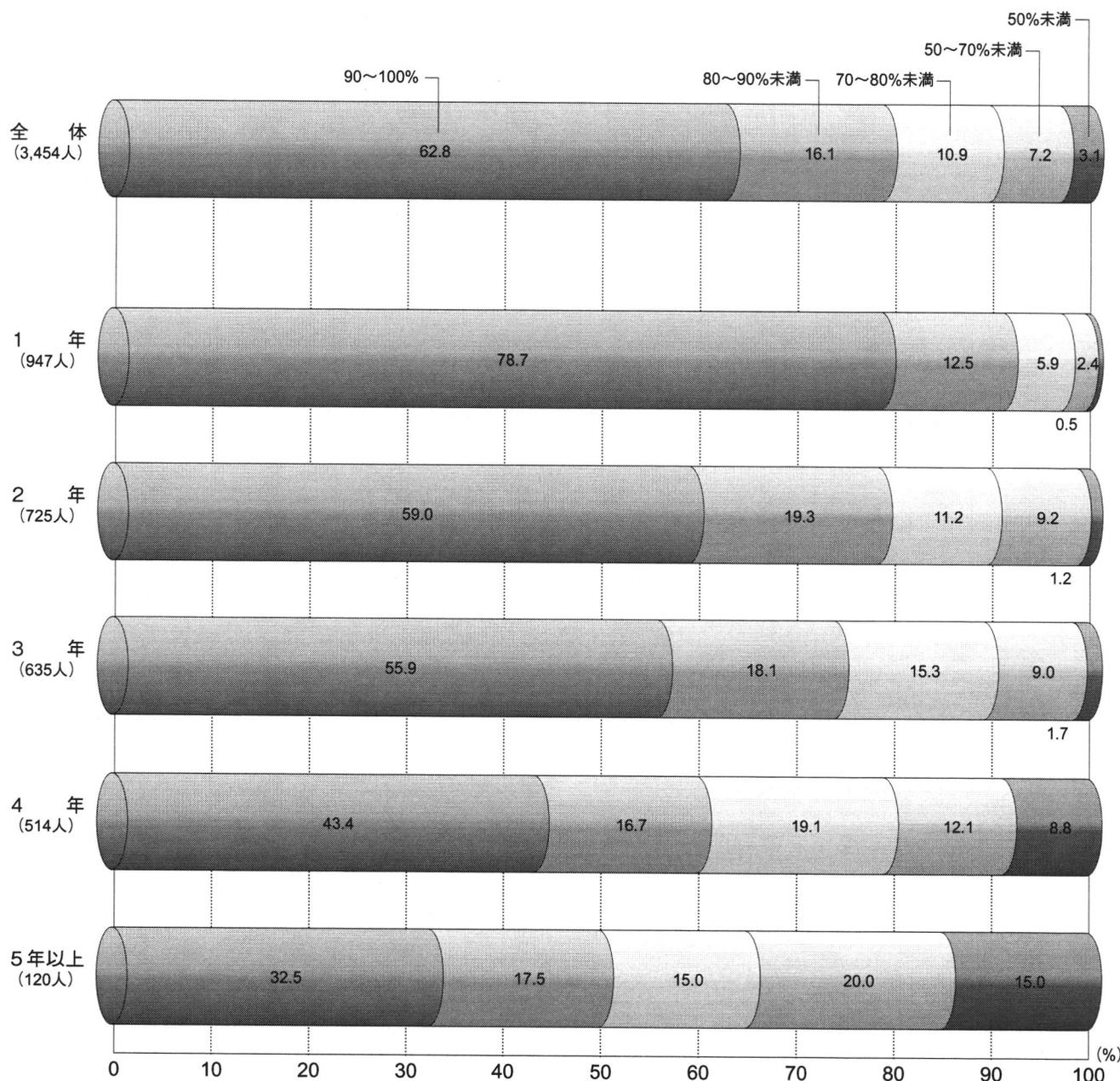


学部学生の授業への出席率90%以上の割合

1年：**78.7%**、2年：**59.0%**、3年：**55.9%**、4年：**43.4%**

出席率が9割以上の学生は2008年度（56.9%）、2009年度（60.9%）、2010年度（62.8%）であり、2008年度以降、2年連続で6割を超えています。

学部 あなたの今年度（今 Semester）の授業平均出席率はどれくらいですか？ 形式学年別





# 授業満足度は高くないが向上傾向

満足できる授業の割合が「80～100%」

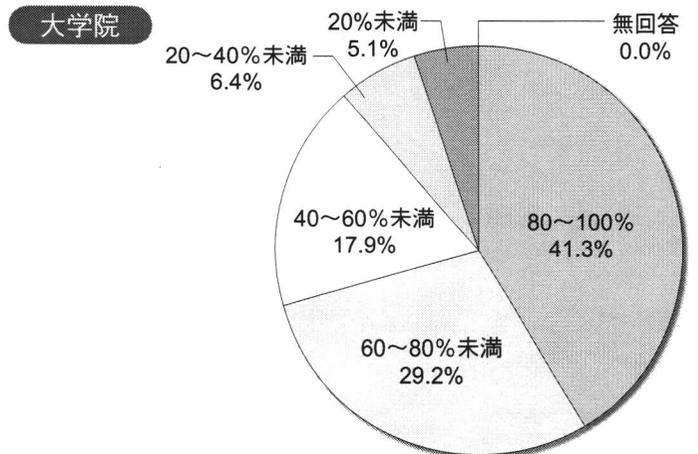
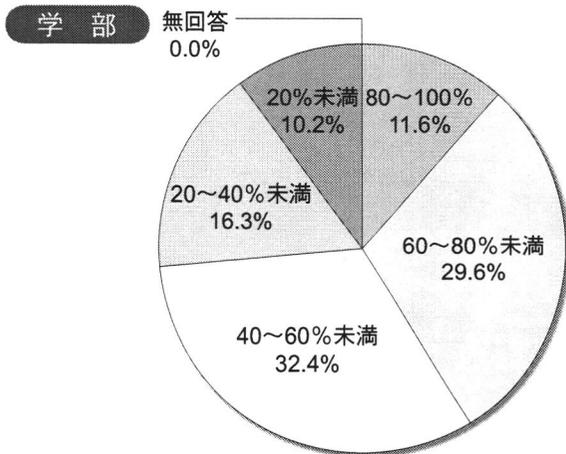


学部学生：**11.2%** (2009年度) → **11.6%** (2010年度)

大学院学生：**33.5%** (2009年度) → **41.3%** (2010年度)

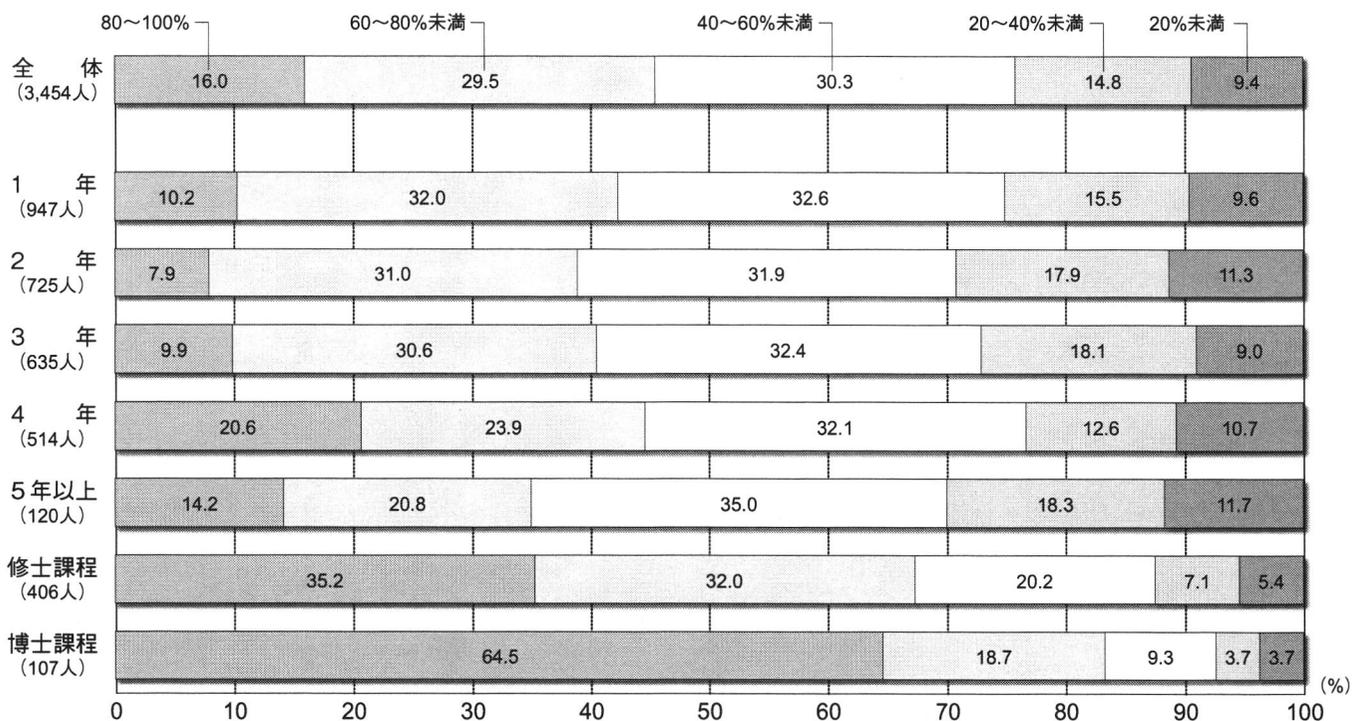
学部学生・大学院学生ともに向上しています。学部大学院ともにわずかながら授業改善成果がみられるようです。学年別でみると学部学生のなかでは4年生が20.6%と高い割合を示しています。

今あなたが取っている授業の中で満足するものはどれくらいありますか？



今あなたが取っている授業の中で満足するものはどれくらいありますか？

形式学年別



# 学部学生の4割・ 大学院学生の9割が教員と対話

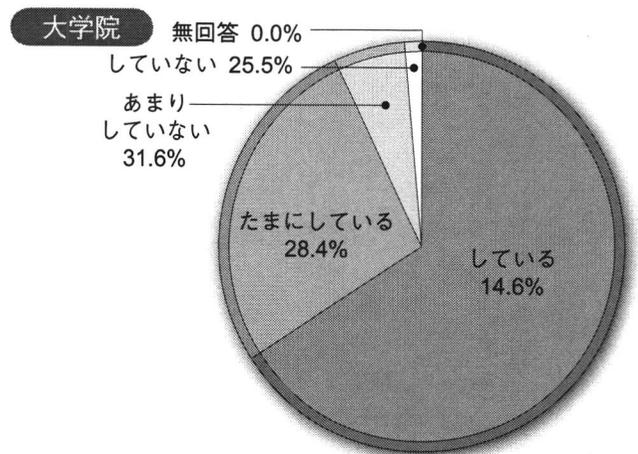
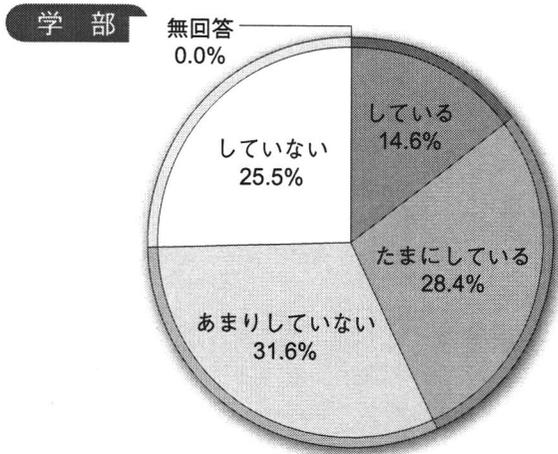


教員と対話を「している」、「たまにしている」

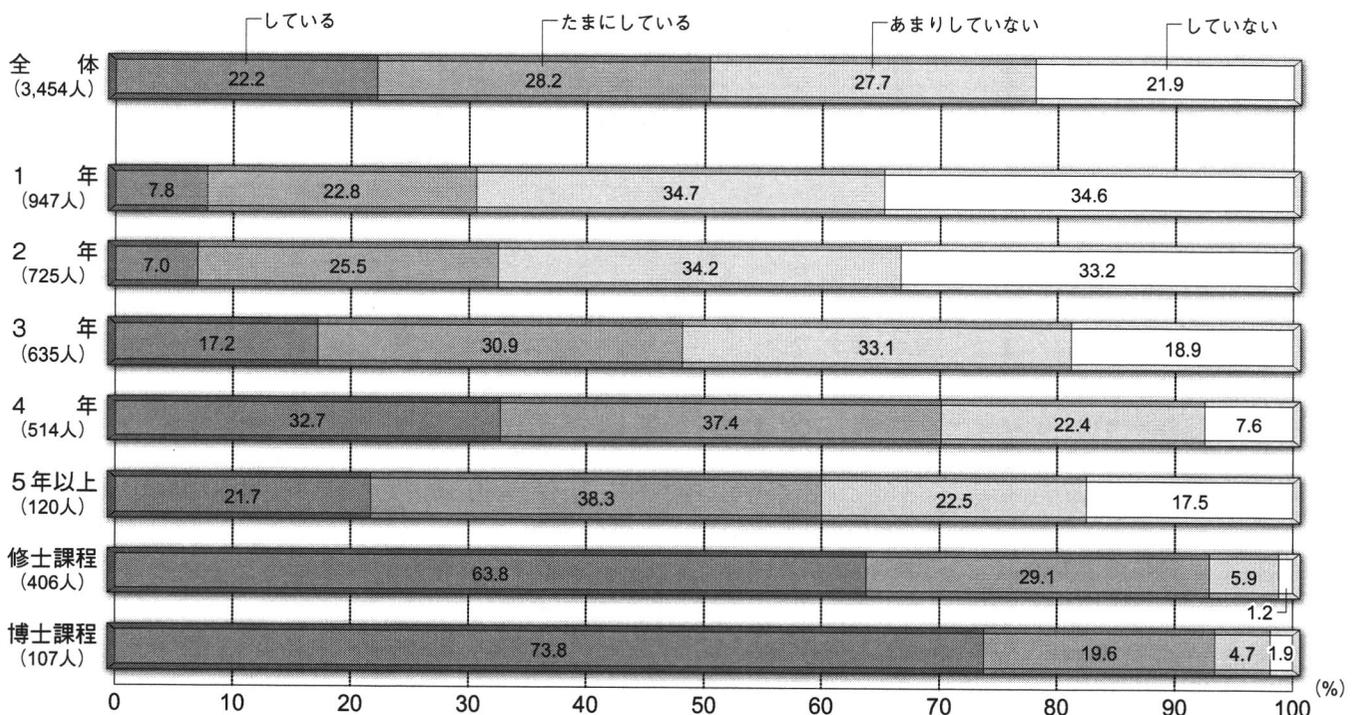
学部学生：43.0%、大学院学生：93.0%

短時間でも教員と対話「している」、「たまにしている」と回答した学生は全体で50.4%です。学年別で見ると1年生で30.6%と低いですが、高学年ほどこの割合は高くなります。

## 短時間でも教員と話をしていますか？



## 短時間でも教員と話をしていますか？ 形式学年別





# 授業は「講義内容」で選択

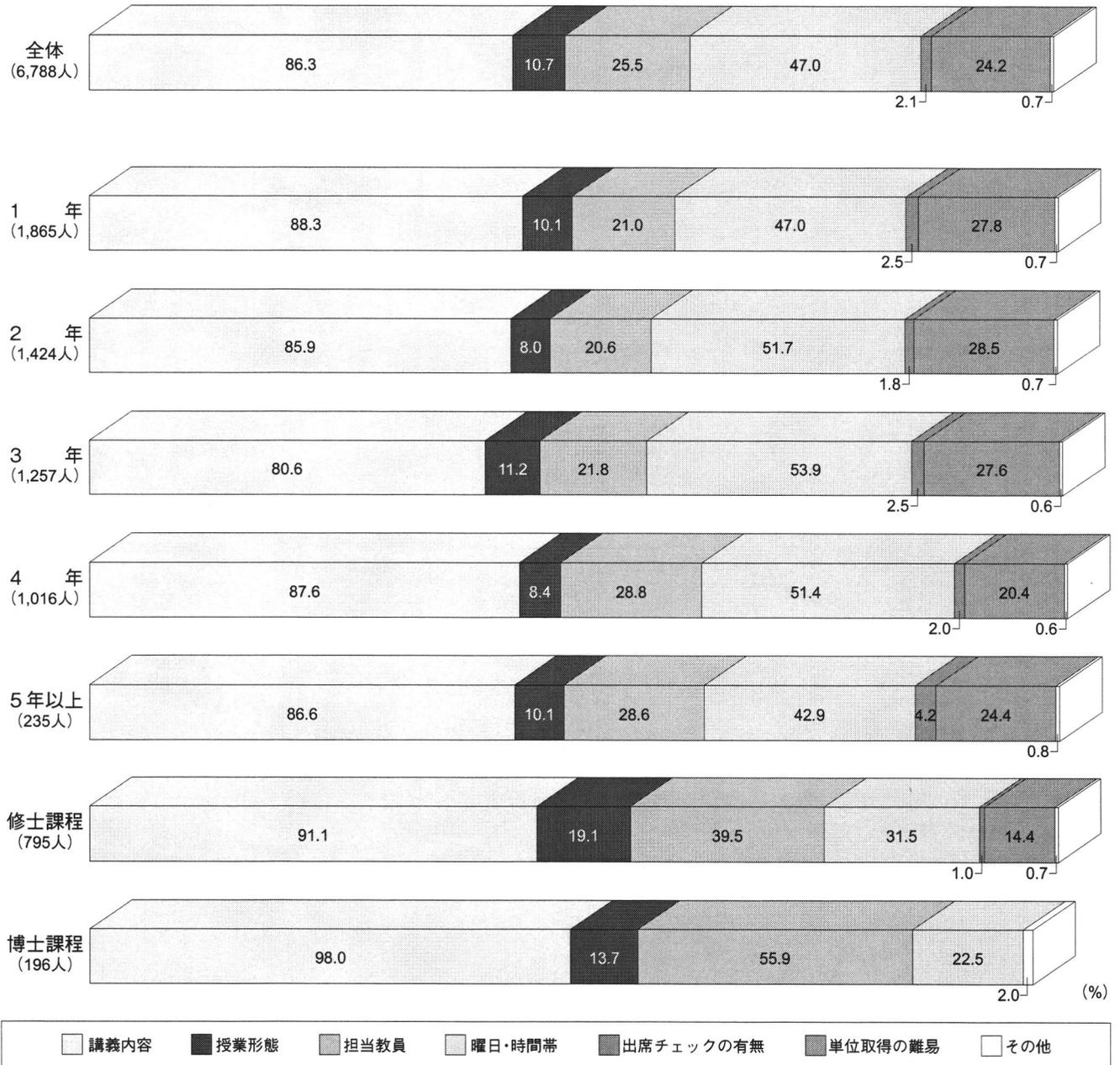
## 授業選択理由のベスト3



学部：「講義内容」(85.5%)、「曜日・時間帯」(50.1%)、「単位取得の難易」(26.4%)  
 大学院：「講義内容」(91.0%)、「担当教員」(42.1%)、「曜日・時間帯」(29.2%)

授業選択の際においては、どの属性においても「講義内容」という回答が多く見られます。そのほか「曜日・時間帯」というのも科目を選ぶ際に重要な要素となっており、個々の生活のスタイルに合わせて選ぶというのも授業選択の大きな理由かもしれません。大学院学生では「講義内容」、「担当教員」、「曜日・時間帯」などがあげられますが、学部学生と異なり、やはり「担当教員」の割合が高くなります。

あなたが授業を選ぶ際に重要だと思う要素は何ですか？(主なものを2つまで選択) 形式学年別

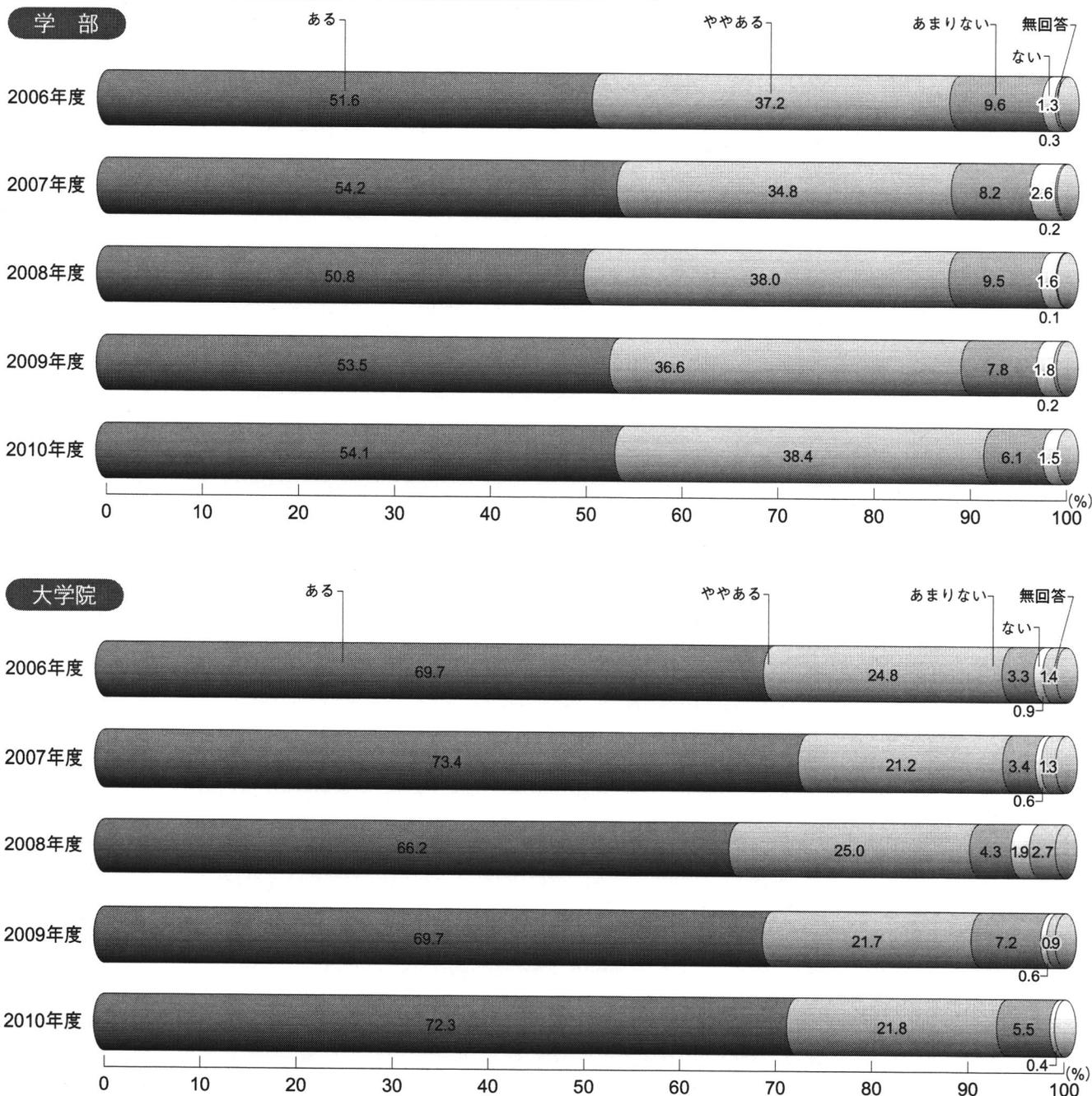


# 第1章 調査結果の要約と特徴

「授業への関心」の回答結果を見てみると、興味がある」と回答した学生は、学部学生で2006年度(51.6%)、2007年度(54.2%)、2008年(50.8%)、2009年度(53.5%)、2010年(54.1%)であり、ここ3年間は増加傾向にあることが分かります。大学院学生では2006年度(69.7%)、2007年度(73.4%)、2008年(66.2%)、2009年度(69.7%)、2010年(72.3%)であり、大学院学生も高い傾向にあります。

2010年について、入試形態別にみると、一般入試で授業への関心度が高く(58.1%)、附属校進学(53.3%)と推薦(54.2%)が同程度です。また、一般学生(56.5%)よりも留学生(62.8%)で授業への関心が高いようであり、大学入学時の目的意識の差を反映しているようです。学部学年別では、1年(57.8%)、2年(49.4%)、3年(50.2%)、4年(58.9%)であり、2年次、3年次に授業への関心が薄れる傾向は昨年度と同様です。

大学の授業に興味がありますか？ 学部・大学院別 経年変化



あなたの今年度(今 Semester)の授業平均出席率はどれくらいですか? 所属箇所別



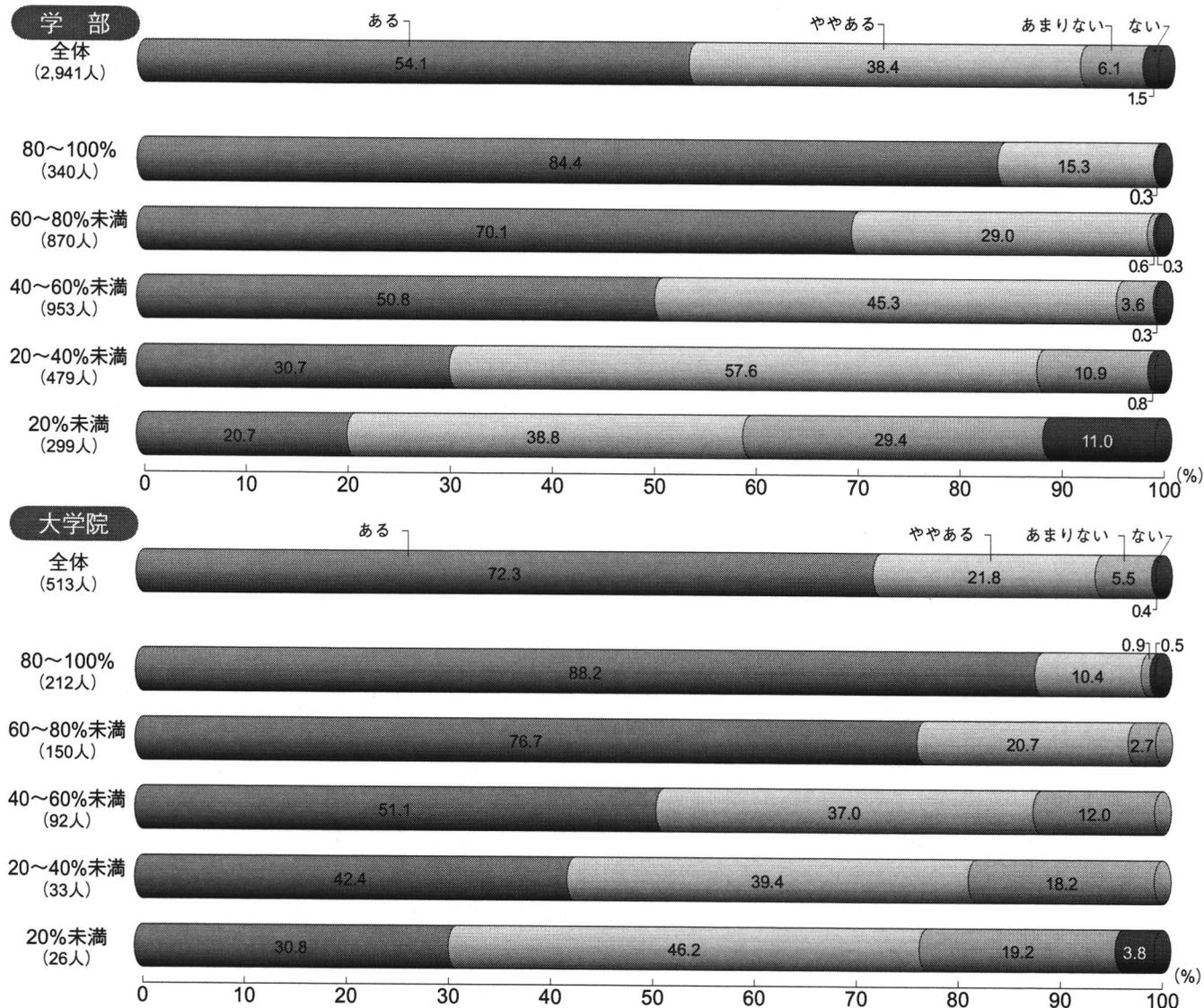
「授業の出席率が90%以上」と回答した学生は、2007年（61.5%）、2008年（56.9%）、2009年（60.9%）、2010年（60.9%）であり、2008年に低下しましたが、2009年、2010年で出席率は増加傾向にあります。

2010年について入試形態別にみると、推薦（授業の出席率が90%以上：71.2%）で高く、一般入試（同：60.5%）と附属校進学（同：61.3%）が同程度です。推薦入学者は授業への関心はあまり高くはないものの、授業への出席率は比較的高い傾向にあるようです。所属箇所別でみると、「授業の出席率が90%以上」と回答した学部学生は3理工学部で7割を超えるのに対して、文科系学部では5割前後と低い傾向にあります。一方、大学院生では文化系研究科で7割以上の学生が「授業の出席率が90%以上」と回答しているのに対して、3理工学研究科では出席率の低下が目立ちます。理工

学部では必修科目として実験・実習科目が配置されているのに対して、大学院では研究室単位での実験・研究が中心になっていることを反映しているようです。

授業の満足度は、大学院生で高く、学部学生で低い傾向にあります。これは例年の傾向です。授業の満足度はここ数年向上傾向にありますが、とくに大学院の満足の向上傾向が顕著であり、満足できる授業の割合が「80~100%」と回答した学生の割合が初めて4割を越えました。所属箇所別では、文学研究科、商学研究科、教育学研究科で満足度が高く、満足できる授業の割合が「80~100%」と回答した学生の割合が6割を越えています。学部・大学院ともに授業に関心が高い学生ほど授業への満足度が高い傾向にありますので、学習意欲の高い学生に対しては十分な教育が行われていることがうかがえます。

クロス集計 大学の授業に興味がありますか？／今あなたが取っている授業の中で満足するものはどれくらいありますか？

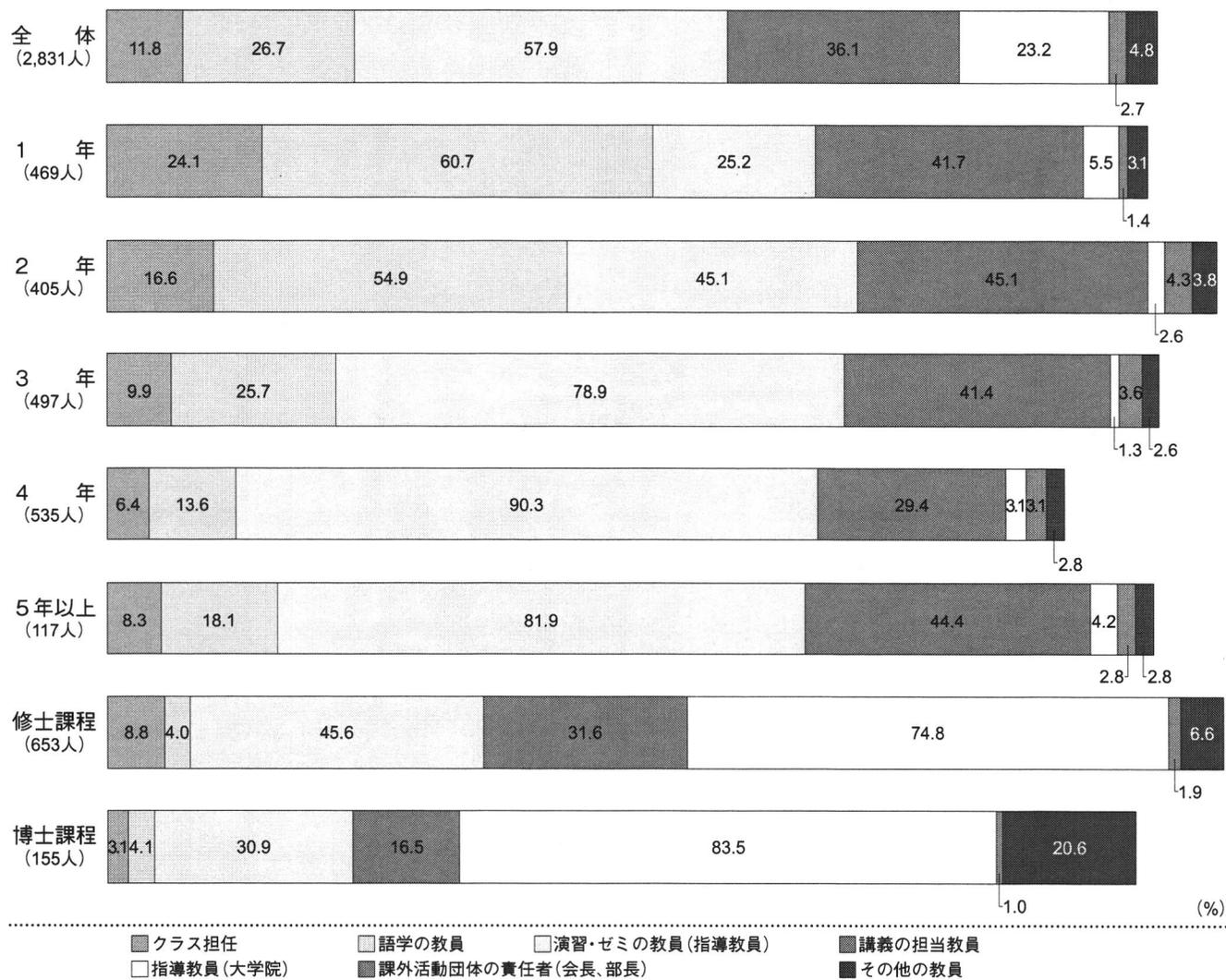


短時間でも教員と対話「している」、「たまにしている」と回答した学生は、学部学生では昨年度と同程度ですが（2009年：42.5%、2010年：43.0%）、大学院生では上昇傾向にあります（2009年：89.9%、2010年：93.0%）。この比率は留学生で高く（77.0%）、留学生は教員と話す機会が多いようです。また、高学年ほど教員と話す機会が多くなりますが、話をする頻度、教員、学年別にみると、1年生と2年生では「語学教員」と「講義の担当教員」であり、3年生と4年生では「演習・ゼ

ミの教員」、大学院生では「指導教員」となります。

一方、短時間でも教員と対話を「あまりしていない」、「していない」と回答した学部学生のうち、授業選択の理由に「曜日・時間帯」と「出席チェックの有無」を挙げている学生の多くは「教員に用がない」を理由に挙げています。授業への関心が低い学生は、積極的に授業に参加しないため、授業の満足度も低く、教員とも対話しないという実態がみえてきます。

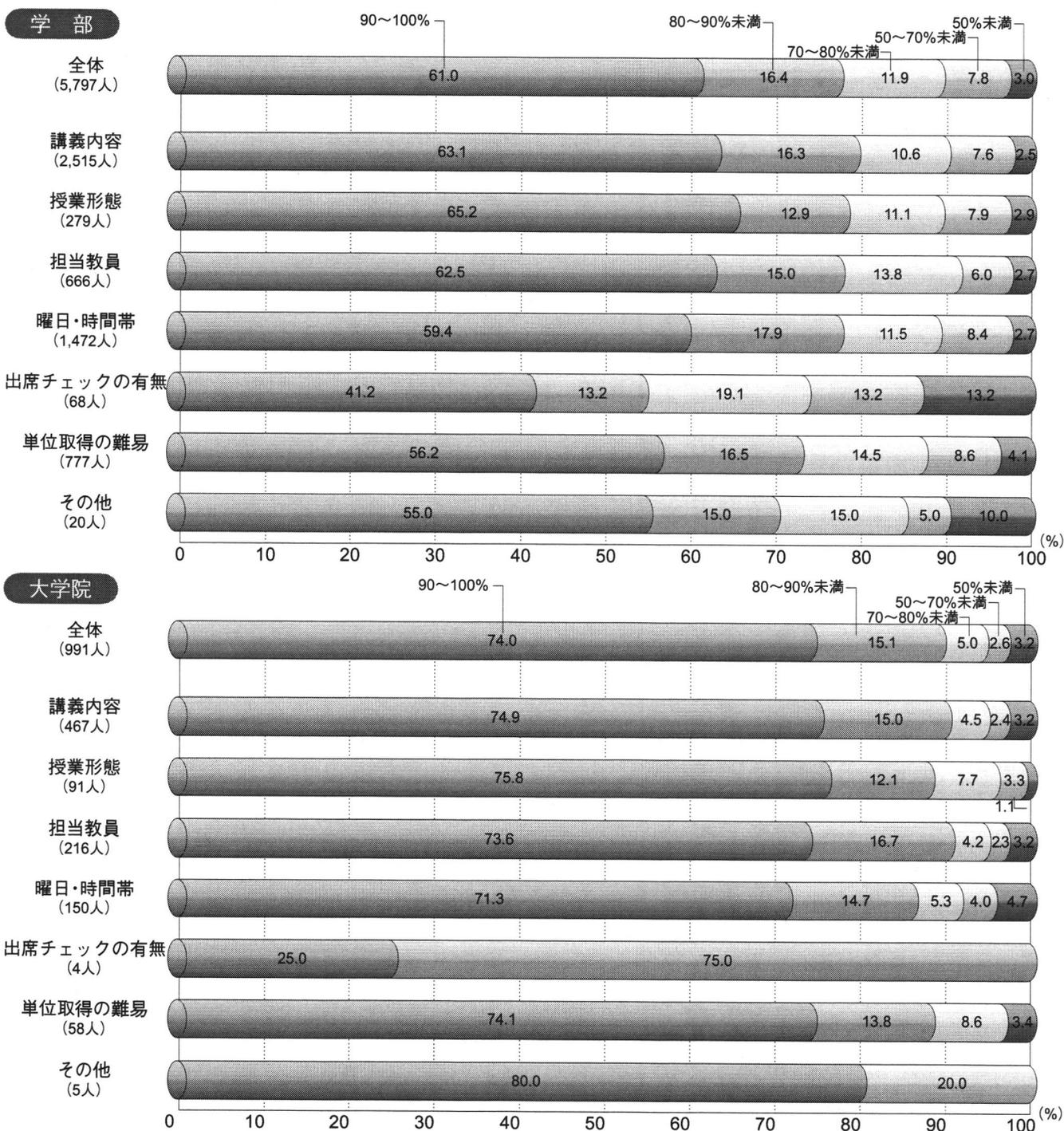
[教員と話を「している」「たまにしている」と回答した人にお尋ねします] よく話をするのはどんな先生ですか？（複数回答可） 形式学年別



授業選択で重視する上位3要素が、学部学生では「講義内容」、「曜日・時間帯」、「単位取得の難易」、大学院生では「講義内容」、「担当教員」、「曜日・時間帯」の順であることは例年通りです。学部学生について入試形態別にみると、一般入試学生は「講義内容」を重視する傾向が強く（一般入試：88.6%、附属校進学：81.0%、推薦：83.8%）、附属校進学と推薦では一般入試学生に比べて「単位取得の難易」を重視傾向にあるようです（一般入試：20.5%、附属校進学：31.7%、推薦：33.4%）。

学部学生のうち、授業選択基準として「講義内容」、「授業形態」、「担当教員」と回答した学生の6割前後は授業出席率が「90～100%」であり、これは昨年と同様の傾向にあります。一方、授業選択基準として「出席チェックの有無」を挙げた学生では出席率が低下します。積極的な理由で授業を選択している学生は授業に出席していますが、学習意欲の低い学生は出欠をとらない授業を選択し、授業に出席しないで卒業しようという意図が読み取れます。

**クロス集計** あなたの今年度（今 Semester）の授業平均出席率はどれくらいですか？／あなたが授業を選ぶ際に重要だと思う要素は何ですか？ [主なものを2つまで選択]



## 新入生必見！「わせだライフ ABC ～充実した学生生活を送るために～」

「わせだライフ ABC」は、早稲田大学に入学した皆さんが、これから学生生活をおくるにあたって最初に知っておくべきことや、知っておくと学生生活をより充実することができる内容を盛り込んだオンデマンド形式の新入生対象セミナーです。

早稲田大学はどのような大学か？ 歴史的、社会的意味とは？ 大学生として必要な心構えとはなにか？ といった知識だけでなく、図書館の上手な活用、学問の幅を広げるオープン科目の活用、留学やボランティア活動、キャリア形成に関することまで幅広い内容が習得できるように構成されています。新入生の皆さん必ず受講しましょう！

「わせだライフ ABC」は“Course N@vi”から受講できます。

「わせだライフ ABC」は、8つのテーマで構成されています。

### ①学生生活を送るにあたって

学生生活を送るにあたって必要となる「マナー、トラブル事例とその対応事例」をはじめとして、課外活動、健康管理から、障がい学生支援、キャリア支援などについても学びます。

### ②学生生活として知っておくこと・学んでおくこと

レポート・発表における注意点となる「引用」の方法を中心に学びます。また、個人情報の取り扱いやハラスメント、エコキャンパス、防災、男女共同参画といった、学生生活だけでなく、その後の社会生活で必要なことについての理解を深めます。

### ③図書館の活用と情報の探し方

学術情報の活用方法（情報の取り出し方）やマナーを理解するだけでなく、図書館を活用することの意味を学びます。

さらに情報検索のコツや各種データベースの利用法を紹介します。

### ④自分らしい『知』を創造しよう

WASEDA式アカデミックリテラシーをはじめとしたオープン科目や、全学共通副専攻（テーマスタディ）を通して「自分らしい『知』の創造」へと誘います。

### ⑤“研究の早稲田”の推進

社会でも高い評価を受けている、早稲田大学の最先端研究をはじめとした取り組みを紹介し、研究がより身近なものになるような基礎知識と新世代の研究者としての心得を体得します。

### ⑥国際化と早稲田大学

国際化が進む早稲田大学の取り組みや、留学、異文化交流について学び、国際化時代に必要となる人材について考えます。

### ⑦社会とつながるボランティア

様々なボランティアプロジェクトを、皆さんの先輩方の話を通して、ボランティアを身近に感じ、社会との関わり的重要性について学びます。

### ⑧早稲田大学の歴史を学ぶ

早稲田大学の創設者である大隈重信と創成期の早稲田大学を支えた人々、早稲田精神、政界・ジャーナリズム、スポーツ界などでの卒業生の活躍を通して、早稲田大学の歩みに迫ります。最後に、『早稲田大学校歌』もありますので、皆さん3番まで覚えましょう。